
真・恋姫†萌将伝 ～群雄割拠再び？～

イルカ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

真・恋姫†萌将伝 ～群雄割拠再び？～

【Nコード】

N9281X

【作者名】

イルカ

【あらすじ】

萌将伝の記憶を持った恋姫達が、原作開始前にタイムスリップ！！

群雄割拠を乗り越え、大陸に平和を齎した恋姫達。二度目の荒廃した世界をどう生きるのか？

群雄割拠は再び起こるのか？

仲良くなった者達に刃を向ける事ができるのか？

そして、北郷一刀は…その内出ます。

序章、閉じた外史、生まれた外史

後漢王朝末期

三国時代と呼ばれる群雄割拠の時代

それぞれの理想、野望、想いを胸に戦い抜き

世界に平和を齎した英傑達。

その傍には常に、管輅の予言通り、天の御遣い・北郷一刀がいた。

『荒廃せし世を導く者あり

その者、流星と共に現れ

世に平和を齎す。

即ち、天の御遣い也。』

英傑の数だけ天の御遣いが遣わされ、その数だけ広がった世界。ある者はこれをパラレルワールドと言い、ある者は外史と呼ぶ。そして、この外史

英傑達はそれぞれの外史で乱世に平和を齎した。

戦後処理政策として北郷一刀を御旗とした三国連合を発足。

『三国連合の御旗、天の御遣い・北郷一刀』

この事柄が世界に与えた影響が強過ぎ、北郷一刀を触媒として外史が引き寄せ合い、繋がり、混ざり、融合し、矯正され、やがてひとつの世界として、統一された。

『天の御遣い、一人の想いの為に力を振るう

一人の思い叶いし時、始まりは終わりへと至る』

この統一された世界も、他の外史と同じ様に、時が経てば消えゆく

定めであつた。

しかし、外史の融合の結果、取り込んだ外史分だけ世界の寿命を伸ばした。

更には、融合していない外史までも、北郷一刀を触媒として吸収しはじめた。

が、遂にこの三国連合の世界も、寿命が尽き、終焉を迎える。

が、全ての消滅を逃れるかのように、吸収されかけた外史に英雄達の想いと記憶が混ざり、新たな外史として誕生した。

その外史の扉が、いま開かれる。

1、それぞれの始まり（前書き）

それぞれのお話。

時系列はバラバラです。

1、それぞれの始まり

／冥琳

はあく、やっぱりこうなってしまうか。

「雪蓮、もうこの辺でいいだろう？」

「何言ってるの？これからが本番じゃない」

そう言っつて、美羽：袁術に向かつて黒い笑いを浮かべる孫呉の王。と言っつても、今の身分は美羽の客将。

「美羽？今度はね、前みたいな事はしたくないな、思ってるのよね？」

「しえ、雪蓮：わ、妾も、もう怖い思いはしたくないのじゃ。政務室の隅でガタガタと震えている美羽。」

「おい、雪蓮。この辺で止めておけ。泣いてるではないか」

七乃と抱き合いながら目に涙を溜めている。その目が一瞬、私を見て、

「わ、妾は、な、泣いてなぞおらぬぞ！」

と精一杯、虚勢を張る。

「ふん…：そっかそっか。前は泣いてたのに強くなったじゃない。それで、そんな美羽ちゃんはこれからどうしたいのかな？」

前回の事を思い出したのか「ひっ」と息を飲む美羽と七乃。

「わ、妾は…：妾は…：そ、そうじゃ！妾はこれから七乃と一緒に、主様を探しに行くのじゃ！今決めたのじゃ！！だからこんな城はぬしにくれてやるのじゃ！！」

わっはっは、参ったか！と、笑う美羽。

あっはっは、さっすが美羽！と、笑う雪蓮。

こんな脅しで手には入るぐらいなら、前回あれ程まで苦労する事はなかったのではないか。

二人の笑いが響く部屋で、そんな事を思った。

／白蓮

街に出ると懐かしい顔が揃っていた。

「伯珪様、おはようございます」

「お、太守の嬢ちゃん、今日もいい天気です〜ね」

一人一人に挨拶をして歩く。

昔懐かしい光景に、少し涙

が滲んだのは内緒だ。

「たいしゆさま？なってるの？どつか、いたいの？いたいいた

いしてあげようか？」

……内緒だ。

つて、こんなに小さな子に見られたんじゃ仕方ないな。

「あ、もう大丈夫。目にゴミが入っただけなんだ。ありがとう

うな」

そう誤魔化して、少女の頭を撫でる。

「あらあら、太守様すみません。珪歌ちゃん、太守様にありが

とうは？」

「んー？たいしゆさまありがとう」

首を傾げてから、そう言ってニカッと笑う少女。

なぜ私がまたここに居るのか。一体何があったのか。なんて私

が考えたって分かる筈はない。だけど、ひとつだけ分かる事がある。

今度は、今度こそは絶対にこの幽州を守り抜く！

少女の笑顔を見て、決意を新たにした。

／蒲公英

「母上っ！……！」

おねーさまがそう言って、おば様に駆け寄った。

「こら、翠。いきなり抱き付いて来てどうしたと言うのだ」

そう言ったおば様の言葉もおねーさまには聞こえないのか、母上！
母上！と泣きながら抱き付いている。

困った顔で蒲公英を見るおば様。

「何があつたのか分からないけど…蒲公英も同じみたいね」

こつちへいらっしやい。

笑顔でそう言つて、手招きをするおば様。だから蒲公英は、

「おば様…おばさま…うわあ〜ん！…っ」

泣きながら抱き付いちゃつて。

蒲公英にはお母様がないけど、おば様がお母様みたいだから、

「おばさま…おばさま…おかーさま…うわあ〜んっ

」

つて、いつの間にか、おかー様おかー様つて叫んじやつて、
泣き疲れて、眠つたつて。

後でおば様が笑いながら言つてた。

／真桜

凧が大変な事になつとる。

もう三日も魂が抜けたような感じや。まー気持ちは分からんでも
ないけど。

「なー沙和、このままやつたら、凧が使いもんにならなくなるん
とちやうか？」

「うーん…沙和もそう思うのー」

「せやけどなー…隊長、今何処におるんか分からんしなー」

三日前、気が付いたら昔の家で寝とつた。

今までの事が夢だつたんかなー思つとつたら「凧ちゃんが大変な
のー」と沙和が駆け込んで来てな。そのまま連凧の家まで連れて行
かれたんや。

凧の家に着いたら、凧の奴「隊長…隊長…」と連呼しながらフラ
フラと彷徨つてたんや。

「こりゃーあかんと思って色々話したんやけどな？耳から耳へと抜けとった。」

心ここに在らずや。

「隊長、華琳様のところに居るんやるか？」

と、沙和に聞く。

「そんなの沙和にはわからないの。でもこのままここにいても隊長にはきつと沙和達を探せないと思うの。だから、沙和達が見つけないとダメだと思うの。」

おおー？こりゃ意外や。沙和の奴もちゃんと考えとるやん。

まー、隊長の事だからやろうけどな。

「せやな。待っとつたっていつになるのか分からのやし。なら、こちらが探さなあかん。」

「そうなのそうなの！それに、うまくいけば隊長の事独占できるかもなのー」

「おおお！？それは盲点やった！！でかした沙和！ほんま冴えとるやんか！」

思わず沙和を抱き締めようとした時、

「隊長を独占だとおー！！！！！！！！！！」

凧が突然雄叫びを上げた。

「沙和！真桜！そうと決まればこうしてはおれん！すぐに隊長を探しに行くぞ！！！！！！！！！！」

「凄いの凧ちゃん！復活したのなのー！！」

「めちやくちや 元気やないか…さすがうちらの隊長や」

沙和と二人で、なんや騒いどる凧を見て思わずつぶやいた。
こうしてうちの旅は始まったんや。

1、それぞれの始まり（後書き）

次回も、短めの個人パートになります。

文章の始めに一文字分空けるか空けないか迷っています。
アドバイスをありましたらお願いします。

2、それぞれの始まり？（前書き）

まだ個人パートです。
短い話ばかりです。

2、それぞれの始まり？

2、それぞれの始まり？

／朱里

「うゝ…ご主人様…何処ですか？」

雛里ちゃん、今日も夢でご主人様を探しているのかな？

水鏡先生の塾を出てから今日で三日目。

寮の寝台で起きた時は驚いたけど、雛里ちゃんと相談して桃香様やご主人様を探そうってなって。雛里ちゃんにも三国連合の記憶があったから、多分、他のみんなも記憶を持っているだろうって。でも、幽州までは遠いから、紫苑さんか月ちゃんのところに行つて、記憶の事を確かめようってなって。でも、紫苑さんのところに行つたら幽州まで遠いから、やっぱり月ちゃんのところに行こうってなって。でも、洛陽は怖いかもって雛里ちゃんが言うから、やっぱり直接幽州に行つて白蓮さんに会おうって決まってる。それから旅に出たのはいいんだけど、毎晩雛里ちゃんがご主人様って泣いて。

私は親友だけとお姉さんみたいなものだし、私がしっかりしないと雛里ちゃんも心細いと思うから。

だから、はやくご主人様に会いたいです。

／雛里

「うゝ…ご主人様…何処にいますか？」

朱里ちゃん、今日も夢でご主人様を探してるのかな？

水鏡先生の塾を出て今日で四日目。

寮の寝台で起きた時は驚いて泣いちゃったけど、朱里ちゃんと相談してご主人様と桃香様を探そうって。朱里ちゃんにも三国連合の記

憶があつたから、多分、他のみんなも記憶を持っていると思うつても、幽州までは遠いよ？って言ったたら、紫苑さんか月ちゃんのところに行つて、記憶の事確かめようって決まつて。でも、紫苑さんのところに行つたら幽州まで遠いよねってなつて、やっぱり月ちゃんのところに行こうって決まつたけど、洛陽はちよつと怖いかもつて言つたら、やっぱり幽州に直接行つて白蓮さんに会おうって決まつて。

それから旅に出たのはいいんだけど、朱里ちゃんが毎晩ご主人様つて泣いて。

親友の朱里ちゃんにはいつも助けてもらつてるから、今度は私がしつかりしなくちゃつて思つたんだけど。

だけど、ご主人様…はやく会いたいよお。

／桃香

起きたら知らない街の宿屋さんで眠つちゃつてたみたい。

何でこんな所にいるんだろう？みんなはどうしちゃつたのかな？

そう思つて外に出てみたら…。

昔はよくこんな光景見てたなあ。

盗賊に荒らされた後の村。

お金が無かつたから、黙つて泊まらせてもらつちゃつてたなあ。

でも、朝起きたら誰もいなくつて。

その代わり色んな所に死体があつて。

前の日からずっと、穴を掘つて埋めて。

疲れて動けなくなつたら宿屋さんで眠つて。

起きたらまた穴を掘つて、死体を埋めて。

涙を流しながら、どうしてみんなで笑つていられないのだろう？つて穴を掘つて。

どうして私に力が無いんだろう？つて、涙が止まらないまま死体を

埋めて。

小さな子供を埋める時には「ごめんなさい」って涙で前が見えなくなつて。

そう、こんなふうに。

「あれ？何で、涙がでてるのかな？」

「どうして私はまた、こうやつて穴を、掘つて、いるのかな？」

「平和に、なつたのに、なんで、みんな死んじやつててるの？」

「涙が…止まらないよ…でも、穴掘つて、埋めて上げないと…」

「なんで？…なにもできなくて…ごめんなさい…ごめんなさい」

「愛紗ちゃん…鈴々ちゃん…ご主人様…みんなどこにいるの…」
ずつとずつと、穴を掘つて、死体を埋めて。

／流琉

兄様、お元気ですか？

今私は、季衣と二人で旅をしています。

五日前に起きた時、私は昔住んでいた村の私の家にいました。楽しくて幸せな夢を見ていたんだな…って思いました。

兄様は知ってましたか？

そういう夢つて、覚めた時に凄く切なくなるんだつて。

華琳様や兄様がいて、秋蘭様や春蘭様、風さんや稟さん…凧さん達…。

皆さんで騒いで遊んで戦つて。

兄様に新しい料理を教えてもらつて。

そんな毎日をもう過ごせないのかと思つたら、涙がでちゃつて。
「流琉！にーちゃんたちのところに行こう！！」

そんな時に、季衣がそう言いながら部屋まで入つて来ました。疑問に思つた事を季衣に話しても「難しい事はわかんないから、とにかく行くよー！」つて。

ほんとに季衣つてば変わらないなあ…つて思いながら、私は旅支度

を始めました。

季衣ってば、一回決めたら強引にでもそうしようとするから。そうして、二人の旅が始まりました。

って言うっても、華琳様の居る陳留までですけど。

あつ、そうだ！

昨日、美羽ちゃんと七乃さんに会いました。

こっちに来て初めて知った人に会えたから、最初はちょっと不安でした。

「おー？華琳のところのちびっ子二人なのじゃー」

って、美羽ちゃんが言ってきたから安心しました。

美羽ちゃんと季衣が「お前の方がちびっ子だぞー」「なんじゃとー！？」って、騒いでる横で、七乃さんと話をしました。

なんでも、兄様を探すために雪蓮さんに地位を譲ってきたんだそうです。

確かにお二人とも兄様に懐いていましたけど、そこまではなんて凄いなと思いました。

私達はやっぱり魏の武将だから。

華琳様の親衛隊を辞めるなんて考えられません。

私達は華琳様のところへ向かうから、美羽ちゃん達の方が先に兄様に会うのかな？

そう思ったら、ちょっとだけ胸がチクツとしたけど、またみんなで騒げればいいかな？って、思う事にしました。

もう、華琳様のいる陳留が見えてきましたので、この辺で失礼しますね。

2、それぞれの始まり？（後書き）

流琉の話し方が掴めない…。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9281x/>

真・恋姫†萌将伝 ～群雄割拠再び？～

2011年10月26日09時03分発行